工業つ子

No.139
—発行日—
2016.10.25
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

平成２８年ロボットコンクール
長工ロボット 一2台、全国へ 大躍進！

九月十七日に大村工業で行われた長崎県高等学校ロボットコンクール。ロボット部門とマイコンカーラリー部門に出場しました。長工のロボット研究部のロボット班とマイコン班にそれぞれインタビューしました。

六年ぶりの優勝！ ロボコン部門

会場では選手たちの真剣な雰囲気に圧倒され、応援していた自分にまで緊張がうつってきました。

今回、長工から出場したロボットは「伸太」と「産業革命」の計二台。競技は、制限時間が最大三分間で一チーム三名で臨みます。今年の課題は全国大会の会場石川県に

▶緊張の本番…！

ちなんだ設定。リモコン型ロボット「としいえ君」が伝統産業品「山中塗の弁当箱」と「輪島塗の盆と箸箱」を自立型ロボット「北陸新幹線」がてまりと共に「金沢城」へと運ぶ設定です。

結果は「伸太」が優勝、「産業革命」が準優勝。長崎工業高校が六年ぶりの優勝を果たしました。

この結果に部長のM３越川駿平君は「三年間行けないと思っていたが、全国に行けて良かった。まだ改善点が多々あるので、確実に点数をとれるようにしたいです」と取材に応えてくれました。

また、「伸太」チームリーダーD２橋口兼亮君は「自分のミスで減点されて悔しかった」と話し、「産業革命」チームリーダーC２八木将貴君は「親機の完成度が低く、危険な状態だった。そのせいか、アームが壊れてしまった」と、試合を通して多くの課題も見つかったようです。

顧問の岩田先生からは「嬉しい。もうちょっと安定できるように見直していきたい。これからまた頑張って欲しい」と喜びと期待を込めて話されました。

ロボットはいつ故障し、エラーを起こすかわかりません。前日の練習でうまくいっても、本番で崩れてしまうこともあり得ます。運も味方に付けなければならないロボコン。努力に苦労を重ねてきたんだと感動しました。

全国大会での活躍も期待しています。

難関コースに苦戦 マイコンカー部門

ロボット競技が行われている中、マイコンカーの競技も会場を盛り上げていました。マイコンカークラス、一般的なアドバンスクラスの二部門があり、長工の選手は全員アドバンスクラスへと出場しました。

今年のコースは曲がりながら坂を上るという難易度が高いコース。長工の機体は惜しくも完走出来ず。好調なスタートを切れなかったり、良い調子で走っていた筈がコースアウトしたりで結果を残せずに終わりました。

会場で選手に話を聞くと「今年のコースに対応するプログラムの処理が上手くいかなかった。来年はプログラムの改善が必要」と話していました。

今年の経験を糧に来年の活躍を応援します。

▲マイコンカ―いざ、出陣

想いの力で日々を豊かに

長工一大イベントの一つである体育祭が無事終了しました。私は、初めてだったということもあり、「とても大変な一日」でした。

さて、総合優勝の機械科は三連覇を達成しました。その原動力には「一番になりたい」「絶対に三連覇する」といった「勝ちたい」という「想いの力」があったのではないでしょうか。

少し前の話になりますが、本校野球部の取材で藤本先生にインタビューをした際、先生が「選手たちの想いが伝わった」とおっしゃっていました。この時、直接野球部の試合を見たわけではありませんが、野球部が全力で戦ったことがひしひしと伝わってきました。

いかにそれぞれに十分な能力があってもチームの仲間との協力がなければ全体として本来の力を発揮できません。協力の向こうには一人一人の成し遂げたい、なりたい想いがあるのではないでしょうか。

皆さんは日々の学校生活にどんな想いを持って行動していますか。定期考査や資格試験の時はもちろん、毎日の家庭学習や授業を受ける時、適当な気持ちで流していませんか。テスト直前になって夜遅くまで勉強しても あまり効果はあがりません。それよりも普段から目標をもって「集中して勉強しよう」とコツコツ真面目に勉強していた方が良い結果が見込めるはずです。部活動にも同じようなことが言えると思います。

何かを想う、イメージする事はとても意味のある行為です。スポーツなどでもよく「イメージトレーニングが大切だ」と言われます。何のために今自分はここにいるのかという出発点を見つめ直し「ありたい自分」をイメージしてみてはどうでしょうか。今より良い結果が生まれるかも知れません。

（渡部）

ロボコン、ポスターでも表彰！ ポスター部門

ポスター部門の最優秀賞は定時制工業技術科４年の堀悠希さん。全日制建築科１年馬場麻矢さんは優秀賞を受賞。二人に受賞の感想を聞きました。

▼堀悠希さんの話。

―全国大会が石川県なので ロボットのデザインを石川県の武将「前田利家」の甲冑をイメージ描いた。まさか最優秀賞になるとは思わず、聞いたときは現実味がなかった。

▼馬場麻矢さんの話。

―ロボコンで長工が受賞できて良かった。自分の受賞も嬉しかった。一つ一つの作業を丁寧にするように工夫した。

二人とも、受賞おめでとうございます。

▼堀悠希さん

▲馬場麻矢さん

溶接団体優勝！ ―協会理事長からも期待の声

九月二十五日に長崎高等技術専門学校で行われた溶接技術競技会。大会直前、選手は「優勝します！」「上位に入れるように！頑張ります」「練習の成果をだす」とやる気十分の様子でした。

競技会が始まると会場全体が緊張に包まれ、工具と溶接の音だけが響いていました。

大会終了直後、P３松本奏和君にインタビューを行うと「ミスをしてしまった」とのこと。このほか選手たちからは「とても緊張した」「練習通りできなかった」「これから技術を向上したい」「もっと練習を重ねていきたい」などの声が聞けました。

長崎県溶接協会理事長の山口さんにもお話を伺うと「全体的にレベルが上がっている。長工は先輩から技術が伝承されている。今後も期待している」と長工への期待をよせられていました。

溶接は外観と曲げ試験で評価されるため、結果

▲　競技中、集中！

の発表があったのは十月。そして長工は見事に団体で優勝。個人でもN―２Fで２位P２稲田聖大君、３位P３田中裕大君、敢闘賞P３松本奏和君。A―２Fは敢闘賞A１井上義基君。SA―２Fは３位I３本多健人君が入賞。大会後日P３田中君に話を聞くと「長工にきて初めての優勝なので嬉しい」と話してくれました。

N―２F部で入賞した三名は十月二十九、三十日佐賀県で行われる九州大会への出場が決まりました。三名に意気込みを聞くと「良い結果を残せるよう頑張ります」「個人でも団体でも優勝を狙っていきたい」「自分の力を発揮できるように頑張りたい」とそれぞれの思いを語ってくれました。

九州大会で練習の成果を発揮し、活躍できるよう祈っています。

▼ 蛙ぴょこぴょこ七ぴょこぴょこ

今日の一枚 ～守護蛙？～

秋の風に誘われて金木犀の香りが鼻腔を燻るこの季節。秋ですね～。

さて、今日の一枚は池の裏にひっそりと暮らしている七匹の蛙です。皆さん気付いていましたか。いつからここにいて誰がここに置いたのか。これは長工の一つのミステリー？よく目を凝らしてみると諏訪神社の文字も…。もしこの蛙の秘密を知っている方がいればぜひ新聞部へ。もしかしたら長工の七不思議？になったり…なんてことも？

（溝上）

青春日記

朝晩の肌寒さを感じるようになり、衣替えの季節となりました。今まで、季節の変わり目には高確率で体調を崩していた私。今年こそは、健康ぴちぴちな状態で秋を迎えたい。

就職試験からはや一ヶ月。当時の記憶はもやもやと薄れ…はっきりと覚えているのは「道行く女子高生のスカートがとにかく短い！」。膝上を標準装備とし、膝下は希少種。いや、存在すらしていなかったかも。一番衝撃的だったのは、腰に「シャンプーハット巻いてる？」といっても過言ではないくらいの女子高生がいたこと。（それ、見えてね）と思いつつ、二度見してしまいました。

そんなこんなで私の東京観光はスカートに翻弄される良い旅となりました。思い出と比較してみる。「安心」と少しばかりの「がっか」。一でスカートのことしか考えられなくなるのは、一男子高校生としての仕方のないことだろう。

話は変わって、先日開かれた体育祭。話したいことはたくさんありますが、まず。一、二年生に感謝です。多くの三年生は係役員の仕事が減り、学科のテントで応援や観戦する時間が多くなったのではないでしょうか。私も、去年と比べてカメラを構えている時間がだいぶ短かったような気がします。体力温存できたおかげで、無事「大障害走」を完走。さまざまな意見を頂きつつ、三年間上位を目標に「大障害走」頑張ってきた私。例年通りの結果に対し、慰めの言葉が一番聞きたいです。

冬服移行と同時にズボンの裾上げをする踏み抜きました。つい上げをなぜ。

（松尾）

行って、見て、聞いて、感じて、広がった見識
～ベトナム研修を経て～

今年より生徒海外研修の行き先がドイツからベトナムに変更。八月二十一日～二十五日、十名の生徒が初めてのベトナム研修に参加。感想などを聞いてみました。

研修に参加したのは、A3松尾千尋さん・松永純さん／I3碇梓希さん／D3山内洸季さん／A2熊田敬太さん／I2鶴田真唯さん・川脇成美さん／J2喜々津璃夏さん／I1山村晃永さんの十名。研修終了後、アンケート形式で、いくつか聞いてみました。

まず、今回の研修で印象に残った場所や研修について聞くと「クチトンネル／戦争証跡博物館／墨東建材工業であった講演会／ドンコイ通りの買い物／ビテスコフィナンシャルタワー／ベトナムサクセス」などが挙げられました。ベトナムにも長崎と同じように戦争の傷跡を後世に伝える記念館があるようです。

また、日本との違いを感じたところについては「スコールがあった／バイクで埋まっていた／物価が安い／暑い／トイレットペーパーを水に流さない／積極性がある／平均年齢が若い／店員さんの愛想がない」とのこと。「積極性がある」ということは、それだけ団結力もあるということなのでしょうか。

▲参加者一同記念撮影

▲ベトナムでの食事

そして、美味しかったものを聞くと「朝食／ベトナムコーヒー／ジャスミンティー／豆／ベトナム風海鮮料理／ベトナム風飲茶料理／エビシュウマイ／果物／フォー（平麺）／ベーコンサンドパン」とさまざまなものが挙がりました。ジャスミンティーを多くの人が挙げていて驚きました。

最後に、感想と学んだことについて。次のような感想が寄せられました。

▼ベトナム研修に行って

―日本から一歩外に出たことで自分の世界観が広がりました。（山富）

―初めての海外ということで、不安な面も多かったですが、今までにない体験ができ、最高の思い出になりました。（松尾）

―楽しかった。（松永）

―日本とは違った文化を肌で感じる事ができてよかったです。（碇）

―海外で働くことの大変さをインターンシップや工場見学を通して学べ、お土産もたくさん買えたのでよかった。（山内）

―日本ではできないような、数々の貴重な経験ができました。また、インターンシップをすることによって実際の現場を体感することができました。（熊田）

―とても良い経験でした。コミュニケーション力など身に付けることができ、新しいものの見方をすることができました。（鶴田）

―とっても勉強になりました。（川脇）

―とにかくバイクが多く、クラクションが鳴り響く街に驚きました。（喜々津）

―初めての海外で、緊張しましたがとても楽しく研修できました。インターンシップでは、物を作ることの大変さ、日本と外国の違いなどを学ぶことができました。（山村）

ベトナム研修に行かなかった私でもアンケートを見て、ベトナムの様子が思い浮かんできました。アンケートへのご協力ありがとうございました。

◀ようこそベトナムへ

広島の魅力に触れた交流新聞
全国総文祭新聞部門 Part2

百八十年の歴史感じる
熊野筆コース

私の参加したコースでは、広島のブランドである「熊野筆」のルーツに迫りました。熊野筆の起源は約百八十年。世界一の大きさを誇る大筆（高さ3・7メートル、重さ400キログラム）や、毛の種類の多さには驚きました。

その中でも、筆司の南部豊栄（75）さんによる筆作り実演には目を見張るものがありました。南部さんは熊野町における千五百人の工芸士の一人であり、二十二人しかない「伝統工芸士」の一人でもあります。各工程は昔ながらの製法で全て手作り。今回は十一工程を見せてもらいましたが、細かく分けると約八十工程に及びます。一本の筆を作るのに二、三ヶ月かかり、とても手間をかけて作られていることが分かりました。

筆の里工房をあとにして向かったのは「久華産業」。ここではおもに絵画筆を手掛けており、従業員は大体が女性でした。久華産業の二代目代表取締役の久保隈真二さんによると「細かい作業が多い筆作りでは手先が器用な女性のほうがいい」とのこと。その後、工場内を案内していただき、なかでも驚きだったのが滅菌機でした。「筆作りなのに何故滅菌機」と思う方も多いと思います。昔筆に菌が繁殖してクレームが何件かあったようで、そのクレームを改善する為に購入されたそうです。

▶世界一の熊野筆

さて、今回の総文ですが、交流新聞の班長という貴重な体験をしました。そこで感じたのは、まだまだ自分は新聞作りにおいて未熟だということ。しかし、取材をはじめ、総文祭の中で学んだことは、たくさんあります。日々の活動で生かしていきたいと思います。（武石）

カープファンの思いに触れる
広島カープの歴史コース

私の取材コースは、広島カープの歴史について学ぶコース。広島と言えばお好み焼きや原爆ドームなど有名処はたくさんありますが、カープが広島についてない存在。先日、カープが二十五年ぶりのリーグ優勝を遂げ、ファンの歓声は、スタジアム全体に響き渡っていました。カープが広島市民に愛されるのは、カープの歴史をたどると分かります。カープは創設当初から親会社を持っておらず、時には存続の危機を迎えた時もありました。そんな状況を乗り越えた原動力となったのは地元の人の募金にありました。カープは広島の家族ともいえる程、市民と一つだったのだと思いました。

現在のマツダスタジアムは観客席が二十七種類と多彩。特に私が驚いたのは、バーベキューを楽しみながら試合を観戦することが出来る席です。他にも寝転がる事ができる席や畳の席など、観客が楽しめる視点に立っています。今年カープがリーグ優勝を果たした時、総文祭で知ったこともあって、ファンの気持ちに少し、共感できました。

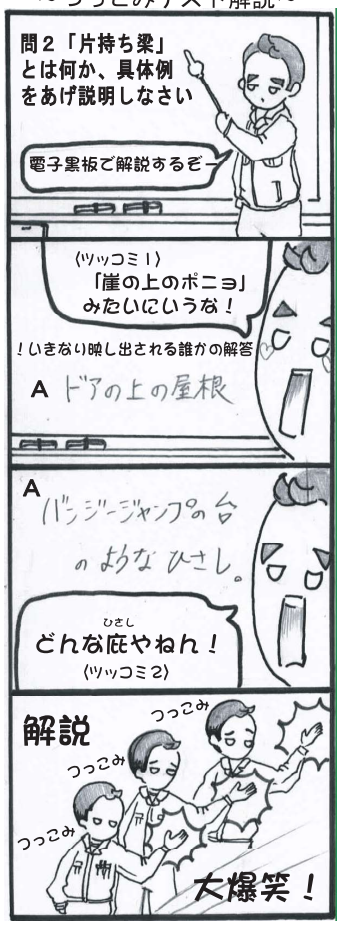
今回、交流新聞づくりを通して、写真の撮り方や編集の方法などメンバーの人から多くのことを学ぶことができました。三年生のあとを引き継ぎ、これから中心となって活動していく上で必要なことを学べた総文祭でした。（峰）

▲試合観戦しながらＢＢＱ

▼新聞部の二年生のスキルの向上ができた総文祭。来年は今の一年生も行けるように、新聞部一同頑張ります。

▶広島で大きな収穫！

中間考査編 てふ互生！！！ パート②
～つっこみテスト解説～



※答って、映しだされると少し恥ずかしい…

シリーズ ロボコン道
着々と。

▲全国大会にむけて

現在は、十一月五日から六日にかけて石川県で行われる全国大会へ向けて行っています。全国大会には全国から百二十八台のロボットが集結します。この中で長工のロボット研究部の順位はいったい…。

ロボットは石川県で開催されるのですが、改造も必要になってくるので、ロボットを発送しなければなりません。大会で使用するプログラムも全国大会の仕様にしなければなりません。今の世代の大会の経験がない少々心配です。

全国大会の雰囲気に呑まれないか…（草場）

一年生な☆日々

体育祭後の二連休で筋肉痛を回復させて、ただ今ＰＣに向かっております。

さて、私の服のサイズは基本Ｓサイズです。体育祭翌日、双子の姉が美容室にでかけるのにつきあって、ついでに私も靴や洋服を買おうと出掛けました。し○むらに着き、商品を見ましたが、気に入った靴も洋服もサイズがありません。泣く泣く店を後にして、周辺の店をいくつか回ってみても、どの店にもサイズがありませんでした。結局、靴も服も買えずに帰宅しました。こんなことがあると思うことがあります。何でＳ・Ｍ・Ｌとサイズが存在するはずなのに、並べてある商品にＳサイズが少ないのでしょう。なんですか、需要がないとでも思っているのでしょうか。そんな不満をぶつけて、この話は終わろうかと思います。

さて、体育祭が終わって次は文化祭です。放課後、仕事がないときはバラ折りバラ折り…etc。最初は三十分もかかっていた時間も、今や八分で折れるように。しかし、部長の五分という速さには遠く及ばず。作品制作終了までには、追いつけるように頑張りたいと思います。（上杉）

編集後記

インタビューも終わっており楽に紙面を埋めることが出来ました。次号は体育祭号でした。当日の様子や写真をたくさん載せるのでお楽しみに！（あー忙しい、忙しい）

ロボコンや溶接の特集です。今回はロボコンの前に体育祭号の前に載せます。